

孝經釋義

上

□ 12

1093

1



門口 112
番 1093
卷 1-2

益軒貝原先生訂正
春庵竹田定直著述

孝經釋義

東都書肆

高山房



孝經釋義序

人道者五倫而已聖人所教學者所務皆莫外乎此
五倫以父子為始百行萬善自孝而推故曰孝德之
本教之所由生夫聖人教孝其言散在四子六經而
其專之者孝經是也然則聖人教人之至要豈有先
焉者耶惜乎暴秦所厄悉為煨燼孔壁所存蝌蚪難
讀漢儒所傳牽合淆真幸至朱子刊其誤而後淄澠
始分焚亂得序其傳經之意猶改定大學也後儒或
弗之察妄襲朱子之疑而忽其講習此豈朱子作刊
誤之意乎哉定直嘗有憾乎斯矣定直少受業於益



孝經釋義序

軒先生其當初見也適聞先生講本經首章精明親切竦然起敬退而劄記用慮遺忘胤後更攷衆說增加補益以爲之釋遂及全編書以國字欲使童蒙析作兩冊命曰孝經釋義稿成質之先生藏存篋笥適緣書坊柳枝軒欲壽諸梓乃再加校以授之第恐膚淺未學辭拙理昧謬解經義更希君子正之爾別有附纂一冊輯錄儒先之說以備參考欲與釋義相發明云

享保丁酉孟春

春菴竹田定直

識

孝經釋義卷上

孝ハク父母ハハハ子徳ノ名アリ凡親トモミ親父
孫ハ或ハ力試竭シテ親此ハ體トモミ或ハ心然クモ
親ノ志意ト樂マシメ或ハ身トモアリ此トモ僅ク親
代傳ルベシ此類トモテ皆孝此一字以テ之レハ經ノ
字ハ常也初トモ極小聖人乃キ名トモ經トモ名ハクハ
聖人ノ教ハ萬世トモナリ萬世此後ハ此子トモモ
此此ハ或ハ力試竭シテ親此ハ體トモミ或ハ心然クモ
諸ノ夷此國ハモ絶トモナリトモ一國トモモ用也ハ
ナリ故小其事トモ經トモ名付ナリトモ此書ハ孝經トモ

名つる系乎其の多載ふ不皆孝之道なる以て也又
 人此道ハ又備とゆふとこれ五倫の道ハ親小孝也
 子生ひては古より聖王此世に治め給ふも明師此
 人と教養ありも今日学者乃そ以て習ふ不皆是
 中かふ事也故に孟子も堯舜此道孝也此と
 の事ハ又堯舜以堯舜より已來聖王相継とゆふ也
 專て道と云ふは後と相傳て孔子に到り孔子又これ
 と後世小傳人となすゆふ孔子の弟子三千人此中
 わきて曾子此孝に厚其事請孔子にまされ此後堯
 舜名と傳て傳ふ孝此道と告ふは後世聖人此人
 を教給ふ事主此小よりて是と篤く志給ふ事此を
 魯一曾子又是と云ふは此門人は授け給ふ曾子乃
 門人ハ此記志と一卷の書と云ふ一是と孝經と名づく
 中又と秦礼始皇の暴虐と云ふ天下此書と傳へて
 孝經を於かく糞燼と云ふりされは孔子九世孫
 孔騰孔鮒と云ふ是中人秦礼法の後意ハ此に
 する多尚書禮記論語孝經等の書此孔子此舊壘
 の壁中に居めと云ふ漢礼武帝此代小よりて系帝此
 子魯乃恭王宮室と造ふ事と好む事宅と云ふ也
 也て孔子此舊宅と壞えんとせられ時始て孔騰孔鮒

孝經義疏卷上

の蔵もとりて一書紙を出たり又始自の書と標し
 時河間顔芝との小者之書と蔵し一書たりしと漢に
 初よりて教芝の子教貞とれと出たり魯に恭王
 の兄河間献王とて朝廷より書ておの出たりと後
 後漢の劉向壁中此書也教芝の傳人より中次合
 せて是次校正し一書終始て全編ととなりし中
 又出たり中ハ皆古の文字也書より一ハ中次教
 に出れと古文孝經といふと後久しく立ひ失て隋代世
 小むて又出たり教貞の出たり中ハ皆今乃又文字書
 考ら極小これと今文孝經といふなり二ハ中次小
 矣わり又古の孝經紛乱して諸簡わたりし漢儒
 他書此經と信用て奉命附會し増加たりとみ
 不多一極小朱子を失と正して孝經刊誤と名し元
 の吳郡川文刊誤也とて別よ孝經の次序と校定
 たり朱子乃刊誤は古文孝經は後ハ吳郡川乃校定ハ
 今文は後へ今ハ釋刊誤の本は後ハ朱子ハ意欲
 各章の下にわたり吳郡川乃經をもそを要とて
 録しけり者なりほしく思や古も聖人言書一ハ考
 と教の由ハ賢人君子此と元ハ親と也と教小書
 何ぞやと經本經は譯なることとちちくそ大じ

孝經刊誤卷之二

とはらふこと一也とくわら身れおきてまじき事候い
 らく今人わつて天下に富強をまへ天下に貴ま位を
 修らんといふも身れ換て是と父母ものわらんや富貴
 榮華も身わつてさう又へまじ世身亡びんども身
 うまん物も天地の間おわら身かるとまじきもの候
 けむつてまじき身ハ誰うわらるるを此所父母はわ
 せ入給ふあり且そ此幼きより長あよびあつては
 とりて我とありて育みおこし給ふ恩徳は父母
 親事まことに海らも娘く山りともろく今親は
 乃人他人は小れ恩恵候ふして志ある事あり候
 父母乃子よおけり限り此恩徳ありてまじき一紙も
 張一が紙とや唯力と竭して孝を盡と致と事候は
 小を方ふ小報ぬ事あるのそ人若くもして是とさう
 じや元れ董季が言わくのせふ孝經大義小け言候は
 其親小くく人若くもと親不わら申す親の親
 じ不小親と一箇乃微なる善も己が物とばも人必
 そ善と志し護ふ一飯なりんかあり恩も己よ恵ま
 らく少くばも人必ふ恩も報ん事候は父を我と
 生し母を我とやこひ給ふ父母の恩徳を己一飯の
 恩よたら給ふよびもつ小を己のさう大なる也我

孝經釋義卷上

三

と形中を執小もあつらふ天地此れ自然の志と云ふもの
と行つたに事状強てはむかひは事状は
形中として成就せらる事は但凡人も執るを
けんと夫の孝子の身と終ふまでけん然夫は故よ
大舜とみわけて父母と慕ひまゐり唯人の
孝わつたわつた念執つてとも慕ふは及哺志母
と志の心材の執と参り然る魚は参りて共に執と
是れを中へ執の離れ此れ此れも参りても親戚慕
ぬ事と一執の是天地自然の道理をばむかひ
少して孝状知るといふ事執れも志と云ふべし然る事

孝此一場の事執も是れ志の事わつたを極とい
参りては徳明の人といふ事も是れ執りて知事わつた
執りて人といふ事も是れ参りては故よ家
ゆわつたを是れ志の事執れも志と云ふべし然る事
是れ志の事とわつたを是れ参りては故よ家
く他人といふ事執りては故よ家
君は是れ志の事執りては故よ家
は是れ志の事執りては故よ家
朋友は是れ志の事執りては故よ家
是れ家國天下に味をしるは故よ家

孝正釋卷之二

夫とく順利ありて事なりはわらば好ま孝を
百行此源ありて物なりは徳も人くは徳と
修らざるは倍しはざるんや好ま古今此人書を
讀むは先孝經とて紅毛の世に治るは典あり亦
先孝經と要しは事誠しはなりなり

仲尼間居曾子侍坐子曰參先王有至德要道以順
天下民用和睦上下無怨女知之乎

仲尼は孔子れ字なり字とい元服此時より人此徳と
かぶらりてけり名ありは好まざるは名代稱他人
よりは字代稱と字と稱す然る人ときひてあり間
居と要事なくとく用服也て居るは必獨わら
りて然るはわら曾子の孔子の弟子名を參字は
子輿曾はた氏なり子といは人服る字と通し用也
好ま孔門の諸君子孔子と稱して子といふは孔子曰
れ子れ字これありは書は弟子の門人名記なり亦か
は好ま又のうは此作やと子乃子のとくは氏を加へ
る子と稱し孔子と申すは是れはうは分別するは徳
ハ徳者若き者ハ側也居るは侍といは侍はよきて侍
ふわりは侍は侍はわらはるるは孔子は側は徳とく
侍るはあり先王ハ先代ハ聖王堯舜禹湯文武

是からし徳と得也と訓して道徳のひては不得
 ろ名孝才忠信れきといひ皆をかり道と徳也と訓
 志多事萬事萬物のよふはこそ必のれとて人
 ふの當然れ道とては物に就かざる人必は道ふ
 登れ事人々をほはれ通ふ大路のこゝに
 道と名付るなり志ふ人若身ハ萬事事ふ
 弟の物よ接ふよはほはれとて教ふ
 子かた事ふはれとて不れ大目と奉てりては父を
 臣史婦を幼朋友れ又倫あり父子といふ物わさて親
 八道わり君臣わさて我を道わり史婦を中はる
 別乃道わり長幼の面やと席れ道わり朋友の交は
 信の道わり是よりゆりまう人道れ大目天子は今
 此人若かありはち亦あり一日と誌念しとて人
 道なりけとては得る不ハ孝才忠信等れ徳
 たり即親よはれと其道とてよはるハ孝なり君
 みつとては得る不ハ忠なり其類なり物あり
 今も徳といふは徳れと極と指してハ要道とて
 也要れ道徳指ありあり史孝才忠信とて一
 一乃ハ心も得る事も徳といふも今も
 極とわさて徳とては父子君臣より一事一

物此とゆもむのく當此の條理わつ成皆あれと居
 とるも今其も要はわけて要及と居るなり
 〇とてけ一節の意と昔孔子曾子れをと呼て者
 ぬくしめ入登まら天下と治め孫よと家くよいまり
 日とに身て先と教く孫よまわら政令と嚴め刑
 罰と肅くまてまよの色わら一箇乃至德要道つ
 てびて天下れ人の心成和ぬめまぬら天下れ人民たの
 りの是ともゆ和尓睦く下き居者ハ咽めく其上は
 是より好よとる人下はうみなくとる人たぬ小て
 〇と下とつふ好よ下り者上はうみぬく上下たひは
 怨と怒の事なり凡天下乃怨いつ縁よ和ぐとるも
 和らり不和れとて今を毎よ不順ら起ふ天下弟民
 乃尓其氣質ゆとゆは意とを情とぬくかん遠
 房とる事つ縁よ多く和順なる事は縁よ和と居る
 〇先王一人の德教よとて天下れ人民よとく和順
 になりて上下怨か此ハ其操と命絶めて其縁と不
 和らる至德要道よわらとて今汝曾冬是と知らわ
 と向孫よあり孔子孝は道と曾子に告孫らんやとて先向
 成役け孫よハ其事と重むとてわらとて先出と居
 〇とるあり且人と者く吟とてわら先と事といとる

恭其人よりく思ふをめぐり自得するはこれにあらは
是とのひもすふを及て其言をわくは一通りやと
たらぬあふ

曾子^{サテ}避席^{ウツ}曰^{ハク}參^{マシ}不敏^{マシ}何足^ニ以^テ知^ラ之^ヲ

敏^{マシ}明^{マシ}敏^{マシ}あり明^{マシ}よとくに記^スをいふ不敏^{マシ}と云^フ遲鈍^{マシ}ありてと
らくはうらぬ意^ヲなり禮^ヲも師^ニ回^ルとわもすを席^ニとみて
起^ルて對^シやくして今^ニ曾子^ノ所^ニははて坐^スなり物^ヲよ源^ニに
はる事^ヲわりし故^ニ席^ニと避^ケて孔子^ノに對^シてはうらぬ
賢性^ヲ速^ニ鈍^ニあり明^{マシ}敏^{マシ}ありは行^ハをわくはとてとて大道^ノ理^ヲ
知^ルるよきとんやとわら

子曰^{ハク}夫^レ孝^ノ德^ノ之本^ニ也^{ナリ}教^ノ之所^ニ由^リ生^ル

の善^ノの德^ノと云^フ道^ノ法^ノのひくは得^ルるは各^ノをこれに
はふるの忠^ノも德^ノなり長^シよはいありは順^ノも德^ノなり
一^ニ事^ノ一^ニ法^ノなりは得^ルるも皆^クこれと德^ノといふ其中^ニに
孝^ノといふはこれ德^ノの根^ニありいんとかれを親^ニも孝^ノも
親^ノもといふは君^ニにつくまも忠^ノなり孝^ノ法^ノを以^テ長者
あつてまも順^ノなり国^ノ門^ニは孫^ノをば夫婦^ノ和^スて和^スて
生^ル一^ニ郷^ノ黨^ノは親^ノをば朋友^ノの間^ニは信^ノの德^ノ生^ルひ物^ノも
萬^ノ事^ノ萬^ノ法^ノ一^ニ義^ノ一^ニ德^ノといふは孝^ノれがらうせよ
事^ノはたと人を茶^ノ木^ノに根^ニをわりて枝^ノ葉^ノ生^ルはとらうて

是孝の徳のふとあるは也、夫人と導きて道よ入るる
教あり其教此大目と父子親わし君臣親わし長幼序
わし夫婦別わし朋友信わし此ふなりのみこと教
教の道も皆是父子親をせんしてましと保ちわらんを
かたをもよとて下は尊ぶ教家人の間に孝れを備く
志と又倫の同じく此れを徳とて順利ありとる
事よし、これをとらんと下は降めと下ら者親感とる不
わしてたのつと父と慈よし子に孝わして父子親とる事
家人と禮とをいひて各を長僕とつとひ長中まらる者い
忠誠及びわらく其君とよははらく君臣親わし是の徳を
也、此の徳は教の由く長幼序わし夫婦別わし
朋友信わして保ちと保ちを教の由く生るる事、孝
みわとるや、教の徳は中教の由く生るる事、此の徳は
孔子ははわらて始て孝此字は注出、此の序よいは
と行るに徳要道は孝の一字なりとよといは行る民
風和睦上下無怨ハ教乃由りたる事なり也、
復坐吾語汝、
孝の道理ハ甚大方なる故よ、此の徳を長一之が、此の
は、ふもあわらひに保ちる、今曾子席と避て立つ、
故、孔子ははわらく此の席も復つと坐とる事、此の孝

孝経卷第一

お具とよつつはつひひのの事事はは物物とと父母父母はは我我をを孝孝とと終終ふ
 ハハ心心をを敬敬するをはは天天命命にに性性理理ととわわららせせららく
 皆皆是是父母父母のの命命にに従従ふはなりなり故故にに其其身身とと毀毀はは傷傷く
 とともも之之ををととししとと虧虧身身とと辱辱めめぬぬはは天天命命にに道道理理と
 傷傷ひひてて不不孝孝是是よりより大大かかららぬぬはは況況んんだだ父母父母のの身身とと老老けけ
 患患はは親親ふふ最最ととやや是是故故にに其其身身にに義義れれ徳徳とと立立
 てて氷氷形形小小ちちららううはは其其行行にに倫倫のの道道をを了了すすてて心心をを心心
 ととるるはは其其佳佳名名にに當當世世をを揚揚げげるるははとと令令同同去去く
 後後世世よりよりううひひそそううてて父母父母にに美美譽譽をを受受けけるるはは至至窮窮小小はは
 終終ららぬぬはは孝孝にに終終たりたりととすす。○竊竊小小按按ととるるはは孝孝のの

始始終終とと初初卒卒小小はは孝孝をを終終てて始始とと晩晩年年小小はは終終と
 少少するは父母父母のの始始とと終終をを孝孝道道最最初初とと一一終終一一際際為為るるはは安安
 かり終とと孝孝道道成成就就今今備備りるをを以以てて毀毀はは傷傷くはと
 子子をを示示其其中中ににめめわわりる故故にに君子君子にに求求むむはは至至三三行行終終
 けけるるにに毀毀はは傷傷くはとといいひひままはは終終てて毀毀はは傷傷くはとと
 終終ららぬぬはは一一生生のの交交用用をを終終てて何何ももたたりる初初年年小
 はは心心ををととししとと毀毀はは傷傷くはとといいひひままはは終終てて毀毀はは傷傷くはとと
 道道理理終終ららぬぬはは一一端端をを以以てて初初よりより身身終終てて道道理理終終ららぬぬ
 志志ををくくんんをを負負ううとととと身身とと立立道道理理終終ららぬぬはは時時をを孝
 道道にに成成就就たりる故故にに孝孝にに終終ららぬぬはは終終てて毀毀はは傷傷くはとと
 道道にに成成就就たりる故故にに孝孝にに終終ららぬぬはは終終てて毀毀はは傷傷くはとと

して身致教を以て人の傷ふ小にして其實人の傷ふ小
 わるを故小のゆへに忠臣義士の身を教して仁義
 を成す事わりる君子も致陣小勇少記の孝にわらば
 以て多つて先儒の流は龍逢比干此身首分刻裂せら
 れり代破ふ足成強くと一殺なり也といふは是れ
 也。又按て故小の辭を記事身と之道致の全に
 在て各代揚る以て事也也を教よわらば一念も名
 小近づくに表わさる其の事也とくを言たりと只
 也も留候なり故小程子も學者此實と務めりて
 各小近づく事致いすめて大中小すては夫れ是れ小
 何より學ぶと後ま後へて此とを莊子の言を以て
 名ハ實此實おれは實わさるハ必名わり君子身と後
 して各乃稱とては此事を疾むと孔子此の言も
 名とて也也人といふはわらば稱と其實乃稱とて人
 名記とて也也故あり故小今身とて道致
 形此實とて也也其名自能よわらば又父母を
 形して光榮とては誠は孝にわらば也但即はわら
 ば此ハ必とて也也實おまを幸小虚名と
 也也君子此知多ありて孝とする小まらとて
 或も身小若わらば不幸にして人々實此稱

孝經精義卷上

十三

乃謂ソレヲ小チ者ノ上ニ意ヲ同シ推シて之一ニ

大雅云無念爾祖（念）修厥德（修）

此十字朱子（其）刊（其）去（其）除（其）去（其）一（其）其（其）後（其）經（其）之（其）後（其）

小（其）者（其）一（其）信（其）之（其）一（其）待（其）之（其）義（其）と（其）叙（其）之（其）は（其）信（其）之（其）大（其）雅（其）之（其）

王（其）乃（其）篇（其）之（其）念（其）と（其）一（其）念（其）朱（其）子（其）之（其）一（其）や（其）一（其）念（其）と（其）一（其）

子（其）之（其）言（其）之（其）信（其）と（其）信（其）之（其）人（其）乃（其）爾（其）祖（其）と（其）一（其）と（其）一（其）

汝（其）之（其）一（其）汝（其）之（其）一（其）汝（其）之（其）一（其）汝（其）之（其）一（其）汝（其）之（其）一（其）

也（其）爾（其）之（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）

也（其）爾（其）之（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）

也（其）爾（其）之（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）

也（其）爾（其）之（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）

也（其）爾（其）之（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）

也（其）爾（其）之（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）念（其）と（其）一（其）

子曰

け（其）二（其）字（其）も（其）亦（其）除（其）去（其）一（其）朱（其）子（其）之（其）一（其）也（其）

愛（其）親（其）者（其）不（其）敢（其）惡（其）於（其）人（其）敬（其）親（其）者（其）不（其）敢（其）慢（其）於（其）人（其）愛（其）敬（其）盡（其）於（其）

事（其）親（其）而（其）德（其）教（其）加（其）於（其）百（其）姓（其）刑（其）於（其）四（其）海（其）蓋（其）天（其）子（其）之（其）孝（其）

け（其）一（其）第（其）ハ（其）天（其）子（其）之（其）孝（其）誠（其）況（其）後（其）也（其）親（其）ハ（其）父（其）母（其）方（其）リ（其）自（其）己（其）之（其）身（其）

ハ（其）不（其）他（其）人（其）之（其）見（其）聞（其）之（其）行（其）也（其）傲（其）奴（其）也（其）誠（其）德（其）教（其）之（其）不（其）德（其）ハ（其）

少（其）て（其）教（其）ハ（其）用（其）カ（其）リ（其）百（其）姓（其）ハ（其）一（其）也（其）國（其）中（其）ハ（其）士（其）農（其）工（其）商（其）之（其）一（其）

人（其）皆（其）族（其）姓（其）之（其）一（其）其（其）多（其）也（其）と（其）一（其）也（其）百（其）姓（其）之（其）一（其）也（其）刑（其）ハ（其）

刑（其）ハ（其）族（其）姓（其）之（其）一（其）其（其）多（其）也（其）と（其）一（其）也（其）百（其）姓（其）之（其）一（其）也（其）

志て上れば亦下れば傲し奉事親小系れりいは格小業
 乃慈を以てふや天子所みびくは孝を教と親おつて
 夫は子孫ありきなりは下はわが人民よく
 心を盡す小感しあへてをめぐむ親とを教と所の
 心を中へけりは亦あはくは國中の病人を乞ひ
 かねて徳教百姓を加之を以て孝くは天下此萬民を
 かくをあらはれよあへて徳教四海ありきとせりは
 為りて是を教親小事とよほしきとば求めて人と律と
 ありてこれに親とを教とせりは亦あはくは徳教とありて下は親れ
 天下此人皆を親とを教とせりは亦あはくは徳教とありて人此者
 を以て天下の人此親とを教とせりは天下として治安ありし
 めはははたしきとありて親よほしきなりてはははたしきと天子
 此は終小孝なりとせりは天子此身小孝と親とを
 正しくし身とを道徳なりとせりは亦あはくは孝業なり
 下節緒候大孝士庶人此孝と終終小を其事此居據
 ありてかへりてとせりは親小はふふは始まり身を盡す
 小終小此孝と皆ありて。古はよ蓋ハ大畧と制とを
 道よりて大なりとせりは天子此は終小亦此孝なりと大
 畧ははたしきとせりは終小なりとせりは

甫刑曰一人有慶兆民賴之

孝經義疏卷上

〇十七

是亦朱子此列也。多事知甫刑。書經此篇名。今此呂刑。方其受。古法。小節。と。刑。一類。義。と。刑。を。言。は。ば。厚。く。書。儀。引。の。意。と。い。ふ。と。上。二。人。言。わ。る。は。下。に。あ。る。億。兆。の。人。民。の。分。是。と。象。子。と。な。り。す。ま。ら。し。西。徇。也。教。就。み。つ。す。事。を。言。て。德。教。百。姓。亦。加。す。四。海。の。刑。と。な。り。多。り。け。治。書。經。小。立。て。い。ふ。平。此。治。め。て。今。引。用。亦。此。意。と。同。か。ら。ま。と。め。後。亦。多。次。摘。て。教。を。言。ふ。也。

在上不驕高而不危。制節謹度。滿而不溢。高而不危。所以長守。貴滿而不溢。所以長守。富富貴不離其身。然後保其社稷。而和其民。人蓋諸侯之存。

是諸侯の孝儀。説了。驕と。身。れ。欲。と。ほ。い。ま。す。は。節。か。り。節。ハ。竹。節。乃。節。れ。と。物。の。節。と。い。ふ。方。り。是。財。用。の。節。と。い。ふ。割。ハ。す。め。す。も。と。て。節。と。た。く。さ。る。意。な。り。度。ハ。寸。尺。定。度。の。度。れ。と。是。亦。物。れ。が。後。も。と。れ。の。ち。財。用。と。出。入。子。れ。ほ。と。い。ふ。方。り。謹。ハ。行。儀。を。い。て。又。ま。ら。し。せ。さ。儀。を。な。り。溢。ハ。物。の。一。杯。み。み。ち。わ。ま。り。て。さ。り。あ。と。い。ふ。方。り。貴。ハ。位。より。紀。と。い。ふ。富。ハ。財。多。ま。と。い。ふ。社。稷。ハ。國。の。孫。守。を。り。中。書。儀。也。い。ふ。人。國。代。封。して。諸。侯。と。ま。す。ゆ。ふ。天。子。と。其。方。也。乃。土。代。賜。小。東。方。也。諸。侯。也。是。亦。土。南。方。也。是。亦。土。

とたまふる類なりを國を領する諸侯は土をたまふる是
 哉を國の内小封して社と天子もたまふる國を或は
 事代明と稱り社と土は神櫻ハ穀長をり人の
 土は稲と穀と食土と穀とれりるふわりたは
 世はまては事代明と稱るれと土は廣闊めて
 わき神くもたま事代明と穀ハ衆多めて一こ
 小まの事代明と穀と土と封して其社とたまて
 土は稲わら事代明と穀ハ長なる不れ櫻と封し
 て是と祭は是國の事あふ福代新の切と社と穀
 不かり御の極は國の必社櫻なり國をたれは社櫻

たり一國代保山と社櫻を山といひ國を山と
 昔はさる長下社櫻なり長といふは是故なり民ハ庶
 人といひ人の位なり人といふ諸侯ハ一國此なり國を
 ぬの等わり公侯伯子男といふて古徳代諸侯とい
 ぬたり。此のいふは諸侯なる人を一國此なり一國此
 臣民の上小長孫不極は事代明の危事事代明の
 こと下は降むるあは御の事代明の危事の故ハ諸侯
 ともはともは諸侯の事代明の事代明の事代明の事
 一とひは事代明の事代明の事代明の事代明の事

之用此其亦又孝なりふせよ徳成節よかめかたのれ
 用ゆへんは用と徳をばかしく是節にわたりたりは
 かりまきとこれ垂て危うくこれを常おもむ位に貴
 ぶは失ふこと後なるを貴ぶ守ふ事あり徳て
 徳とされを常に其財の富失ふこと長く富
 とすの財不かり富貴を身と離すと其事かく
 ろくくめで徳を一回の徳もする社稷と保ちまも
 して亡く失はぬ國中の人民代和け調へく乖離
 せしめど勿れとかなれ大に社稷侯は孝なりとそ
 吏徳侯は人を始て封さるゆは養命と天子に事さ

ちひてり社稷なり民人わけて是とそ子孫は他人
 事とゆふも先云の懇切と徳と和徳とかう和て爵位
 ぬれぬ邦國とけ終る事是もやとくして得る
 事らんや故よ先云らん人々身ハ既ぬ保ふこと人共
 をも心と和徳も子孫わけて世とそ國と保ちちりて
 失はざる事終るひ終る魚し子孫より是は
 和をひて徳理ぬるひ法とそ長くと富貴を
 ちり先云り他人終る事乃社稷とたると民
 人を和け調へ終る諸侯の考る事誠よ是なり
 大に和をかりて一和先祖の懇切と念り終る

報乃法とあと思はせて、猶太名狀なり。危溢小いり先
ふり侍へ申すゆへに社稷民人其失ありけり。不
孝これれり。大なりん。これ後、人申すに戒め、
いふふるを不かりゆ。

詩曰戰戰兢兢如臨深淵如履薄冰

是亦朱子此刊也。不かり侍小雅。且是乃篇なり。
姑を戒といふ。戰と兢と恐懼なり。兢と戒懼なり。
深に臨みて、八臨ん事。戒懼を履て、八臨ん事。
伏恐ふ。國君より人。法神よか。ありて、恐れ。信て、
猶太。徳侯と。か。と。と。國人と。保ち。ち。ん。事。戒。思。ひ。後。人。
いふなり。

非先王之法服不敢服。非先王之法言不敢道。非先
王之德行不敢行。是故非法不言。非道不行。口無擇
言。身無擇行。言滿天下無口。過行滿天下無怨惡。三
者備矣。然後能守其宗廟。蓋卿大夫之孝也。

此一篇を卿と大夫との孝と後、魚介卿とを。是非
也。も。位。相。ち。く。を。因。り。な。ぬ。よ。一。套。小。連。流。一。句。
為り上。第。此。諸。侯。も。凡。大。等。此。お。わ。り。と。い。ふ。も。一。一。
套。小。説。の。ゆ。ふ。と。お。か。し。法。の。法。度。な。り。定。れ。る。法。也。
い。衣。服。の。法。よ。合。ひ。ら。法。法。報。と。い。ひ。言。信。此。法。小。合。

一、家法法言といひ初まらるる徳よ中つまらと徳行とよ
 宗廟ハ先祖ノ廟堂ナリ宗ハ尊ナリと訓してハ
 宗々ノ小意廟ハ貌也と訓して先祖ノ容貌と云ふ
 かわてみまらふとくなくまを廟と云ふあり大まらるハ
 正寢ノ希ヨ屋ヲ構ヘ東西小廂と作ると是と先祖ノ
 廟と次大吏ノ位下此人ハ宗廟とカキハ家事わらハ
 次格小士ハ正寢ノ下ノて先祖ヲ奉ル唯卿大夫と
 宗廟と夫と先祖ヲ奉ル故小宗わらハ必宗廟わ
 宗廟と夫と宗廟と夫ハ是故小宗廟と云ふハ宗
 廟と保ハナリ卿大夫と天子ノ朝廷又ハ諸侯ハ國朝
 也と後位乃上小宗也故次格家官ナリ卿ハ大夫と
 天子位一服貴一天子ハ卿大夫ハ諸侯と同列ナリ卿
 大夫ノ祝ハ白虎通等小みえナリ。○世ハ世ハ元代ノ
 聖王禮と制作一終小衣服ノ製法定先之れく
 乃位小意して宗廟わらハ並終小宗ノ貴賤男
 女好のく宜し礼法度ハ衣服わり故小先王礼定也並
 終小法度ハ服ヨ何と云故知此服を及わら服と
 こと先王ハ天地と徳と命と事ハ登人おれと云言其
 初メハ後世礼法紙と云ナリ故小先王礼禮小初
 子法度礼言おわらこれハわらハ先王ノ徳小初

孝經釋義卷一

三十三

此の事天下に傳へては人々皆然と爲し事はま
 法服と服し法衣は徳は徳と爲し三は者それ
 ちを然して後と小ねわその罪と君子得ふ事能く
 下にあらそはうのみ故人を得ふ事なくして能く
 衆民たりして宗廟とすものも先祖の祭と奉ふ
 乞ふに神卿とす此孝なりとそ支衣服は此又行て
 身に表章なり故小服は表し加ふ身は災を
 免ふ也又言はる君子は樞核を爲し一言一行と
 吉凶榮辱致振く事廉の用固は樞軸小くは
 張弛乃扶拮ひきぢゆるゆるとく君子非禮は服は服し

此の事天下に傳へては人々皆然と爲し事はま
 法服と服し法衣は徳は徳と爲し三は者それ
 ちを然して後と小ねわその罪と君子得ふ事能く
 下にあらそはうのみ故人を得ふ事なくして能く
 衆民たりして宗廟とすものも先祖の祭と奉ふ
 乞ふに神卿とす此孝なりとそ支衣服は此又行て
 身に表章なり故小服は表し加ふ身は災を
 免ふ也又言はる君子は樞核を爲し一言一行と
 吉凶榮辱致振く事廉の用固は樞軸小くは
 張弛乃扶拮ゆるとく君子非禮は服は服し

法此言以の非道此の成仁と申すはこれの事なりといふ
わきまを罪状免ふ事わきまを以ては家の外に家廟
中の家事たり不孝の道に非ざる大おんやを卿大
夫とていふゆゑはさむ人成なり

詩云夙夜匪懈以事一人

又毛除の去し詩の大雅丞民此篇なり志何くも
我と解とは夙ハ早朝なり夜ハ深夜なり早朝も深夜
あつたるもて懈怠なくは志を専一人あつたる
於てなり是卿大夫僅と言ひいふてはこれなりと
わきまを事かた意たりゆひなくもさるる家廟と
つて失ふ事なり

資於事父以事母而愛同資於事父以事君而敬同
故母取其愛而君取其敬兼之者父也故以孝事君
則忠以敬事長則順忠順不失以事其上然後能保
其爵祿而守其祭祀蓋士之孝也

此一節を士の孝と況ふも天子の諸侯は小臣及
卿大夫の家臣なり。此の意は忠の心を親む事なり
生し敬む事なり孝なりは父子の一體なりといふ
乃親事事は孝なり父を敬む事は忠なり是れは
其徳天よむ事なりいふ事なり是れは孝なりは敬む

長とふは久然して後其官爵とて俸祿と成すも
 二てなりく先祖の祭祀とすも其礼大畧士と爲
 者此孝なりとて其妻小社稷といひ卿大夫宗廟
 といひ士小祭祀といひ子の名を事とす亦成以て
 重とす多かり然るよ士とる者ハ其位卑下なる故
 小とゆは天子諸侯わりてこれと爲り次めハ卿大夫
 わりてささる長より居わはは久すハ其居多不わり
 あく小むめて少く慢りて法ハ其妻と爲り
 と得て戮とたり官禄と失ひ先祖の祭祀小を忘
 棄成得といふんや父母の礼と後世の徳とや
 まさく小ハ其むむをゆへさ不あり

詩云夙興夜寐無忝爾所生

又此礼去へ一詩ハ小雅小宛の篇なり早朝めて紀
 作事小して其徳を進め業成候めて人ち此父母と
 けのく正多事かこれとあり亦生ハ父母といひ我といふ
 形不な

子曰

財亦此を去へ一

用天之道因地之利謹身節用以養父母此庶人之
 孝也

此一篇ハ庶人の孝ヲ説ク事也天之道ハ天之道也天之道流シテ
 地ニ至リテ春之物生シ夏ハ物を長ク秋收メ冬蔵ト運
 シ此道ナリ地ノ利ハ土地ノ富シハ梁小ナク下
 土ハ穡小ナク一畝類土地此ノ如ク一畝ノ利あり庶
 人トモナク乃人民農工商賈此類トシ方り○是孝
 ノ道也乃テ大ニ終リ一言行テ是也夫也乃ハ此類也
 一言也是也終リ一畝ノ利也是也教ト此トナリ故
 也天子此孝小ナクもて是也教ト從ハ身ハ又士乃孝に
 從テ也教ト從ハ身トモ同乃諸侯卿大夫皆是也教
 也天子ハ交事ト申小ナクもて是也天子ハ四海ノ
 主トモテ終リ諸侯ハ國政保チ終リ卿大夫ハ采地ナリ
 士ハ祿有テハ終リクモ口饒乃其ハ終リクも力也
 乃一也とのくもたも川中終長くもたもて富と夫
 一也家事との川つる父母と孝ハ此道ナリとて
 常乃其力と端と此節目ハ一也終リクも力也
 食此奉乃其力と端と此節目ハ一也終リクも力也
 終リてハ常此祿ナリ終リクも力也終リクも力也
 小終リクも力也父母此孝ハ一也終リクも力也
 乃一也終リクも力也終リクも力也終リクも力也
 終リクも力也終リクも力也終リクも力也終リクも力也

此一篇ハ庶人の孝ヲ説ク事也天之道ハ天之道也天之道流シテ
 地ニ至リテ春之物生シ夏ハ物を長ク秋收メ冬蔵ト運
 シ此道ナリ地ノ利ハ土地ノ富シハ梁小ナク下
 土ハ穡小ナク一畝類土地此ノ如ク一畝ノ利あり庶
 人トモナク乃人民農工商賈此類トシ方り○是孝
 ノ道也乃テ大ニ終リ一言行テ是也夫也乃ハ此類也
 一言也是也終リ一畝ノ利也是也教ト此トナリ故
 也天子此孝小ナクもて是也教ト從ハ身ハ又士乃孝に
 從テ也教ト從ハ身トモ同乃諸侯卿大夫皆是也教
 也天子ハ交事ト申小ナクもて是也天子ハ四海ノ
 主トモテ終リ諸侯ハ國政保チ終リ卿大夫ハ采地ナリ
 士ハ祿有テハ終リクモ口饒乃其ハ終リクも力也
 乃一也とのくもたも川中終長くもたもて富と夫
 一也家事との川つる父母と孝ハ此道ナリとて
 常乃其力と端と此節目ハ一也終リクも力也
 食此奉乃其力と端と此節目ハ一也終リクも力也
 終リてハ常此祿ナリ終リクも力也終リクも力也
 小終リクも力也父母此孝ハ一也終リクも力也
 乃一也終リクも力也終リクも力也終リクも力也
 終リクも力也終リクも力也終リクも力也終リクも力也

草木と竹木と要と活物多小草木此道二あり
 一ゆはさう口籠と草木ハ二かハ其心志以草木ハ二
 分る今ううそれな法草木と心木をうけ籠とを
 衣食とそれな口籠と草木ハ二心志
 と草木と得んや故に衣食と信ふ以て
 之次衣食と信ふあむり農業試う務あよ農業
 業成法とむ多ハ又時令小きうハ土宜と辨あよ在
 春生一夏長一秋收め冬荒ハ是天道なり秋
 則是小きうひて春生と信ふ時一耕一夏長と
 乃時小耘と秋收は時小是とる冬荒は時小
 亦ハ天乃道哉用事なり或はさう或ハ小く或ハ標
 或ハ濕(子)乃地おめくそれなり人物よう一此わ
 多は地地利あり秋ハ則是小きうハ一此は
 黍と人果と愛は春と人標なる愛は桑麻と人
 濕(子)愛は福林と種は地乃利小なり又其
 中小天時乃早晚雨暘此常愛と考へ桑一地利のそ
 くに宜さう人物及培畜は法試審小と信ふ類ハ
 之ゆかり人一是天此時代用ハ是地利試種ハ
 是人物成種と事かく地利ようと天時小
 順ハ是れを物生ハ事ハ天道地利支あうと

本草綱目卷之十一

得て失るるもの人物成徳。農業此業之けて是を
 父母の口説と云ふ中、衣食を以ては仕事也。
又云農業乃以て生計の要也。衣食を以ては仕事也。衣食を以ては仕事也。衣食を以ては仕事也。
 工高りよあもこれわえ。いとくを冷麵と云ふも、
水路の車と製。一箇の舟と造る。水路の車と製。一箇の舟と造る。水路の車と製。一箇の舟と造る。
 乃こそ又心よく身と謹んで敬肆あり、其材用を
 節みして奢侈となさば、敬肆ありて法度と化さ
 刑戮小臨して奢侈とがして材用を傷み、飢寒も免
 らん事と云ふれば、常に是を以ては父母の

に服と云ふ事餘わらぬ。心志と云ふ
 色孝と云ふ事、色に於て父母と安穩に
 樂み、志に於て父母を孝なり、是より以上、
 小ほ人獄分と云ふことありて、此と云ふ事多し。
 庶人といふこと、令けりて士とならば、君小ほ
 事、成得て心、極小獄分、此に云ふ事、朝夕に
 由らぶを唯父母の極小を以て、父母小ほ之を
 ぬの、成得て孝と云ふ事、父母存生、此に小ほ
 ぬて、此より孝事、此に云ふ事、不幸ありて、父母既没
 子といふこと、孝と云ふ事、同一、此に云ふ事、

然る小終始との何ぞや教て身軀の傷るるに
孝道の始道と終の終然らずに孝なれば終なり若
あひのたれとくなら事わざいされを必終とかな親を
辱し家乃事とかなと怒よ天子諸侯卿大夫の臣
是れハ天下國家と失ハ甚一かこれ危礼の
士庶人必災禍其身よある處一是又終分
わりとかなと親よ事なよ始り身と三子よ終
事ハ天子より庶人よいさるるをいさるる
は終小通して戒と終ては終天子よ庶人
いさるるを孝終始なくして禍患及ぶ者ハいさるる

は是をわらうとせり末に有るは改しては理か
の終なり。右終經一章小終の終なり由り小人倫は
切要より先なる事なく孝者先終是より終
子事なり凡天子より庶人よ終るまで終をうる
の終典なり終もやまひとかなと謹むれば
右朱子列記をこれ六十一字と除か卯四
零一字孝終の終又と終朱子列記よ
も孔子曾子問答の言めて曾子の門人此記を
終なりと疑ふはは終謂孝終といふ者ハ
左傳止るなり是を下ハ或ハ傳記と終

て經文と釋をりといひしは孝經の傳なりといふ傳文
 と考ふるふも中より傳會と云ふ事多く經文といふ
 事も亦難折増加り失ある事或はれはとむるま
 漢より以來諸儒傳誦てて非と云ふ事なき
 わるひも孔子れといひ著し終ふ所とてりし事
 てハ若し愈たのむる者なり益經文れ始め孝
 乃終始と統論し中ハ天子諸侯卿大夫士庶人
 此孝成其人を末は是と終て故自天子已下至
 于庶人孝無終始而患不及者未之有也と此
 中ハ首尾相應し次第相兼文勢連屬し脈

絡通貫して同く是一時の言を以て事疑ふ處
 者色細ら儀後人わらして六七章と云
今文孝經ハ仲尼回也
子未之有也よむる事と分て六章と
中ハ古文孝經ハ七章ふからん也
又子曰れ字と増い
也及詩書れ文と引てて多間ハ雜え其文意として
分断間隔せしめ後者として聖言の全體大義と
及家事と得るこゝにハ害とかな事小はらわ
と今此六七章乃者成合をて一章と云はし子曰二書
と引て此一詩と引てもの四とて六十一字と刪て
經文の舊小儀と云ふ事。今竊ハ按とら小朱
文公先生孝經と定めて經一章傳十四章と云

孝經釋義卷上

三十三

孝内可也是まゝと小漢唐諸儒の見及ハさる事
 之を書紙讀之の精審小聖言紙知之れ傳ハ
 ありてハ何ぞあつ小いまゝんや知之も竊小疑ハ
 解ハさる孝經とらふ事と今此經文小止事とらふ
 ハいまゝと必ととくくと當初曾子ハ内人孝經と
 記之附孔曾一時の同答と篇首小録一と末も
 同く曾子ハ内人亦紙編付けて傳傳ハ分なく一
 篇の文字とらふはこれ後殘餘とらふ事
 と後人まゝ附會雜記して今此孝經とらふ傳
 色亦知らる事不かりハらんや傳文中中傳

切爲明の聖語他の傳傳小身ハさる者多きこと
 極小朱子色亦疑て質しくハ此經とは是謙退の
 詞たりとらふ是大學素句の皮して疑ハ此と
 相かりたハ此文ハ傳例色亦大學十傳ハ明白
 不家とハさる事知りとらふ是聖人此言
 紙經と一傳紙發明とら傳傳とす今と以て是
 とら傳其言ハ連屬一々全備一聖賢一時の
 同答皮して疑ハさる事の皮断定て經文と一純
 按相雜つて經文と發明とらと此と定めて傳文と
 せハ又何れ不可かり事ハらん孔氏ハ舊文ハ

孝經義疏卷上

見たりと今此孝經ハ漢儒ハ編次たり刊誤の
 孝經ハ朱子乃編次たり孔門此舊文既より事
 と得たりハ漢儒乃附會と海内と用んらば
 大賢朱子乃刊誤よきとらんよりの事也
 乃此中漢儒附會此說間よりいふこと多く
 是純粹令吾乃聖言なり然らば或は是伏察
 と仰ふよ朱子此疑よ發て聖言と合して是と
 廢し孝經と認て今く傳書とて講求せらる
 ものハ是以謂文とを聖言或傳書此類なり
 朱子刊誤と認つらば是意と大か違ふなり也

